

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 660 号	氏名	松丸 一朗
学位審査委員	主査 蒔田 直昌 副査 前村 浩二 副査 福岡 順也		
<p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、心エコー所見・術中肉眼所見から2種類に分類される僧帽弁変性性疾患、Billowing mitral leaflet (BML)とFibroelastic deficiency (FED)に関して、臨床的特徴と病理組織的变化の関連を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 重症僧帽弁閉鎖不全症で手術を行った僧帽弁変性性疾患73例(BML9例、FED64例)を対象とし、臨床的特徴、手術内容、術後経過、組織切片におけるムコ多糖類の病理学的変化を観察したもので、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、BML群はFED群に比較し有意に若年だったが、性差は認めなかった。僧帽弁形成術を行った例では、BML群の方がより多くの弁尖切除縫合や高度な腱索再建術を必要とした。また切除した弁は、FEDに比べBML群において肥厚が著明で、ムコ多糖類の蓄積も明らかだった。今後計画している生化学的解析、遺伝学的解析含め、循環器外科学研究への進展が大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は循環器外科学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。</p>			